

海面養殖 実現策探る

八戸 水産関係者が座談会

八戸市は19日、八戸での海面養殖の可能性を探ろうと「八戸水産アカデミー」を市水産会館で開いた。出席者約60人が、海面養殖の実現に向けた課題や現状に理解を深めた。



八戸での海面養殖の可能性について意見を交換した座談会

先進地の視察報告に続き、「理想」も「現実」も語る海面養殖座談会」と題し、パネリスト5人による座談会が行われた。八戸学院地域連携研究センター長の堤静子教授がコーディネーターを務めた。

青森産技センター水産総合研究所の中田健一所長は「養殖に取り組みたい人は、種苗、場所、技術が必要。産地の支援や冷凍技術を上げることで新しい需要に対応できる」、八戸商工会議所の大久保圭一郎観光委員長は「八戸は魚がおいしいまちというイメージがあり、新商品をルートに乗せるのは容易。地元で消費できる仕組みをつくり、人気を高めてから外に出す体制を整えてもらえば」と期待を込めた。

八戸みなと漁協の尾崎幸弘組合長は「養殖に取り組む上では、やる気のある人が集まり、生産組合のようなものをつくるなどして、誰でも参加できるようにした方が若い人が参加しやすい」と提言。市水産事務所の茨島隆所長は、長期的な視点で養殖に取り組む意義を指摘した上で、海面

養殖を行う上で必要な漁業権を八戸港内に新たに設定するのは「かなりハードルが高い」との認識を示した。市水産加工業協同組合の中道栄治組合長は「行政、民間業者、学校、金融機関が協力し『八戸連合』で考えていかなければ実現できない」と、関係機関が連携する必要性を強調した。
(岡田圭逸)